

環境施設見学会レポート

— 普段見えない“ごみ処理の現場”を訪ねて —

「普段知ることのできないゴミ処理の裏側を知る非常に貴重な経験をさせてもらった。」
参加者のこの一言が、今回の見学会を象徴していました。

令和8年3月5日、町会役員ら20名が、柏市内の環境関連施設3カ所を巡る見学会に参加しました。廃棄物政策課の柴田さんにご案内いただき、朝9時から夕方まで、充実した学びの一日となりました。

柏プラネット（プラごみ資源化施設）

最初に訪れたのは、プラスチックごみを資源として再生する「柏プラネット」。

回収されたプラごみは 回収 → 破碎 → 選別 → 圧縮梱包 の工程を経て処理されます。現場では、手作業での選別が多く、割れた瓶が混入するとラインが止まってしまうこともあるとのこと。市民の分別がいかに重要かを実感しました。

また、リチウムイオン電池混入による火災事例の展示もあり、誤った排出が重大事故につながることを改めて認識しました。

柏市リサイクルプラザ（紙・缶・瓶・ペットボトル）

続いて訪れたリサイクルプラザでは、資源ごみが 受入 → 選別 → 搬出 の流れで処理されていく様子を見学しました。

再生できない例として、

- 油汚れの紙（ピザ箱）
- 洗剤箱（におい残り）
- シュレッダー紙（繊維が短い）

などが紹介され、参加者からは「掲示板の説明が分かりやすく、判断基準が明確になった」との声が上がりました。

段ボールの紐切り作業の大変さなど、現場の苦勞にも触れることができました。

南部クリーンセンター（可燃ごみ焼却施設）

最後に訪れたのは、可燃ごみを焼却しながら発電も行う南部クリーンセンター。

焼却熱を利用した発電は最大2500kWに達し近隣施設へのお湯の供給も行われています。見学では、3D映像による案内が特に印象的で、「自分がゴミになって焼却される」視点の演出に、参加者から驚きの声が上がりました。

まとめ

今回の見学を通じて、

- 分別基準の理解が深まり、町内のごみ管理に役立つ
 - 普段見えない処理工程を知り、意識が高まった
 - 参加者同士の交流の場としても有意義だった
- といった多くの収穫がありました。

見学会を継続したいという声も寄せられています。

以上